

重誓寺報

第22号 平成24年9月発行

浄土真宗本願寺派 重誓寺 大阪市旭区中宮2-4-19 電話・FAX 06(6951)0090
(西本願寺) (じゅうせい) <http://juseiji.net> info@juseiji.net



夏休みに入り小学生を対象に「お寺に泊まろう」と題した一泊会を行いました。はじめての試みでしたので、少人数に限定しましたが、カレー作りや自然などのふれあい、工作、また早朝からおつとめや掃除などを一緒に行いました。参加いただいた子どもたちにも、夏休みの思い出として何か心に残ってくれたらと思います。お寺はそもそも、子どもの生活にも様々な形で関わってきました。重誓寺には江戸時代、寺子屋がおかれ、明治八年には寺内に中村小学校が創立されました。江野、中(中宮)、南島(大宮)、荒生(生江)、内代、関目の子どもが通学したと言うことです。その後、明治二十二年城北尋常小学校(現城北小学校)が創立されるまで続けられてきました。

現在の学校教育では、宗教的な行事が避けられるようになり、無宗教であることが先進的な考えであるようになって来ました。

しかしその結果、自然や先祖、自分を取り巻く物へ感謝する心が薄れてきたのではないのでしょうか。

ちまたでは、食事の際に手を合わせ「いただきます」ということが宗教的行為と考えられるということも聞いたことがあります。

しかしこれでは、食べ物となる生き物、それに関わってきた方々、そして自然の摂理全てが当たり前で、それらへの感謝する気持ちが全く育たなくなりそうです。

ただ、いただきますと手を合わせることは、人として感謝を表す自然な行為であり、生かされている自分を見つめ直すことではないでしょうか。



セミの羽化を皆で見ました

親鸞聖人のご生涯

③ 承元の法難

親鸞聖人が京都吉水に暮らす法然聖人（六十九歳）を訪ねたのが二十九歳の時。師のもとへ欠かさず訪れた親鸞は「綽空」という法名を授けられ、師の著書「選撰本願念仏集」の書写を許可されます。これは限られた者にしか許されず、親鸞聖人にとって生涯最大の喜びでありました。



親鸞聖人は、自分の信心と法然聖人の信心とは同じものであると言われます。これは信心の深さや知識という意味ではなく、信心に関してまったく自分の力に頼らず、等しく阿弥陀さまから賜ったものだという点であります。

比叡山で学んだ自力の念仏とは違い、法然聖人の言う他力の念仏は、如来の本願であり、信心は阿弥陀さまから私の方へ働いているのです。法然聖人の「専修念仏」の教えは身分を選ばず広まり、ついには後鳥羽上皇の寵愛を

受ける者までが出家する事件が起こります。これに怒りを感じた上皇は専修念仏の停止を命じ、四人が死罪、八人が流罪になる、いわゆる「承元の法難」（一二〇七）が起こりました。

法然聖人は土佐へ、そして親鸞聖人は越後へと流罪になります。

親鸞聖人は妻帯し、子どもをもうけ、「すでに僧にあらざ、俗にあらざ」と述べ、自らを「愚禿」（髪の伸びた愚かな者）と名乗ります。

しかしそこには、出家者であれ、在家者であれ、変わらず阿弥陀仏を信じ、伝えて行くこととの決意を現されているのです。



流罪上陸の地、越後「居多ヶ浜」

法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、五、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

浄土真宗にとって一番大切なことが、
仏法を聞くこと、いわゆる聴聞であります。
ご家族お誘い合わせの上、お参り下さい。

常例法座

八月二十日(月) 昼二時、夜七時三十分

講師 石川 欣也 師

秋季永代経法要

九月二十日(木) 昼二時、

二十一日(金) 夜七時

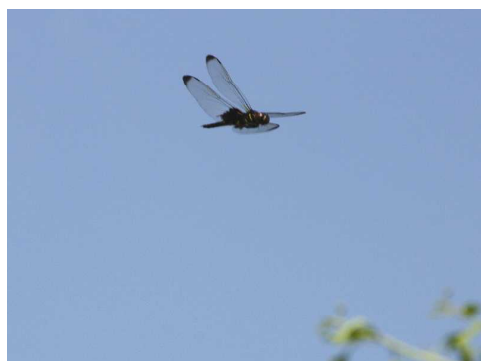
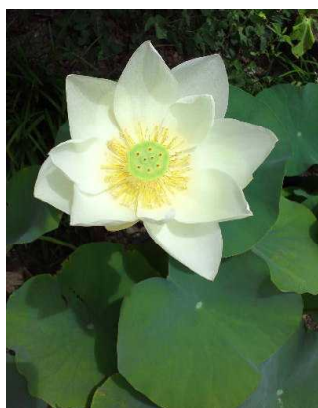
講師 巖水^{いわみず} 法乗 師

常例法座

十月二十日(土) 昼二時、夜七時

講師 藤岡 良治 師

是非お参り下さい。



境内散策



ロンドンオリンピックでは日本との時差が8時間あるため、観戦が夜中になり、寝不足になった方が多いかと思えます。

そもそもロンドンのグリニッジ天文台を経緯0度と定め、世界の標準時とされてきました。しかしそれは日本時間よりマイナス9時間となっています。

実は今の時期、イギリスではサマータイムが採用され、1時間のずれが出ています。今ではグリニッジとは別に、協定標準時が使われるため、日本時間の9時間前が標準時間とされています。

サマータイムという観念がない日本人にとって、時期により時間が変わることには抵抗がありますね。

しかし、調べてみると日本でも戦後の1948年からの4年間、サマータイムが導入されていました。

しかしその後、反対の声が多く廃止となったようです。



前号にて紹介しました、盲導犬候補生「パドマ」は、生後六ヶ月が過ぎ、すっかり大人と同じくらいの体格になりました。

成長と共に、健康管理などで度々、盲導犬訓練所まで連れて行くことがあります。

パドマが所属する訓練所は、大阪の南東部、千早赤阪村で、金剛山系の中腹にあります。楠木正成生誕の地であり、赤坂城跡や、また棚田百選に選ばれるなど自然と歴史に囲まれた地であります。

訪れるとそこが大阪府内であることを忘れてしまうほどの、のどかなところですよ。

大阪市内では見るものが少なくなつた生き物も多く、我が家は行く度にカタツムリやキリギリスなど、生き物が増えています。

